

I. 薬局・医療機関関連

I. 医療機能情報提供に電子処方箋など追加

都道府県が地域住民に医療機関の機能に関する情報を提供する、医療機能情報提供に関して、**2024年4月より電子処方箋を発行できるかなどの情報を追加**で提供することになる。医療機関側は2024年1月～3月で都道府県に情報を提供することになる。同制度は2007年から地域の患者が適切な医療機関を受診出来るように都道府県から地域の医療機関の情報を提供する制度であり、15年以上にわたって続いているものである。

II. 24年は重要な年に

日本医師会の1月11日の定例記者会見において**2024年が重要な年になるとの認識**を松本会長が示した。2024年は診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬のトリプル改定年になる上、医師の働き方改革及び第8次医療計画が開始されるなど、様々な変化が一度に起こる。防衛費増額なども医療財政への影響を与えるだろうし、ターニングポイントになる可能性は高そうだ。計画自体は2023年度中に策定されることから、ロビー活動含め今年が肝になるだろう。

III. 公立病院紹介率 64.3%

全国自治体病院協議会の調査によ

ると、全国の子精神科標榜がない公立病院 165 施設の紹介率の平均は**64.3%、逆紹介率は 53.4%**であった。この数字は 2022 年 4 月～9 月の受診した初診患者が対象となる。また、同期間に治療が一段落して自宅などに退院した患者の割合は 88.4% であった。紹介・逆紹介の流れは定着しつつあるようだ。

IV. 年末年始救急救急困難 7000 件超

総務省消防庁は、2022 年 12 月 26 日から 2023 年 1 月 1 日までの**年末年始の救急搬送困難事例が 7,158 件**あったとの調査結果を発表した。1 週間の報告件数が 7000 件を超えたのは調査開始した 2020 年 4 月以来初めてである。新型コロナウイルス感染症の第八波の影響と、年末年始特有の医療機関の受け入れ態勢の他、例年冬場には救急搬送が増える傾向にあり、これらが重なった結果のようだ。

V. 9 割超医療機関、物価高の影響あり

福祉医療機構が行った病院経営動向調査によると、調査に回答した 243 病院のうち 228 病院が、2022 年 7～9 月の前年同期比で原油高や物価高騰の影響があるとしており、**9 割超の施設が 2022 年の物価高騰に関して何らかの影響**を受けていることが明らかになった。

II. 行政・技術関連情報

I. 腹腔鏡手術を遠隔で実施

千葉県にある国立がん研究センターと山形県にある鶴岡市立荘内病院は、国立がん研究センターから遠隔による手術指導システムを使った腹腔鏡下手術を実施したと発表した。荘内病院の手術を映像で確認しながら、外科医が口頭や図示で担当医を支援した。術後の患者の容体は安定しているという。今回の成功は、医療水準の地域間の差解消などに近づく大きな一歩である。

II. 介護事業者倒産最多

介護事業所の倒産が2022年は過去最多の143件と、前年より76.5%増加したことが東京商工リサーチの調査で明らかになった。新型コロナウイルス感染症の影響でサービス利用者が減少したことに加え物価高騰によるコスト増が追い打ちをかけた形だ。これまで倒産が最も多かったのはコロナ禍が始まった2020年の118件であったが、2022年はそれを大きく超えた。

III. アトピーのかゆみ改善化合物発見

富山大学と佐賀大学の研究チームはアトピー性皮膚炎のかゆみの症状を改善する化合物を発見したと発表した。マウスによる実験で、皮膚組織に含まれるペリオスチンというたんぱく質が別のたんぱく質と結合した結果、知覚神経が刺激されてかゆみに繋

がることを突き止めた。明治製菓が創製した「CP4715」がペリオスチン阻害剤として利用できる可能性がある。

IV. 加齢黄斑変性症、痩せてもリスク

京都大学やカナダのモントリオール大学の研究によると、肥満が関係しているとされている加齢黄斑変性症に関して、一度肥満になると痩せた後も発症リスクが高いままであることが、マウスの実験で分かった。過去に太っていたマウスを痩せさせても、免疫細胞からサイトカインが多く分泌され加齢黄斑変性症の症状が悪化することが判明した。痩せても免疫細胞が肥満を記憶しており、パーキンソン病など他の病気とも関連する可能性があるという指摘している。

V. 特養、採用費年間1億円も

東京都高齢者福祉施設協議会は、都内会員510施設に対し2021年4月～2022年3月の間に支払った介護職の派遣や職業紹介の費用について調査したところ166施設より回答があり、その中の最大値は1億400万円であった。次に多かった特養も9390万円となっていた。中央値は900万円であり、最小は2万円と施設によってばらつきがあるが、物価高騰によるコスト増の他に、肝心のスタッフ確保にも費用が掛かるなど、収益確保が難しくなっているようだ。

Ⅲ. 企業関連情報

I. 「レカネマブ」国内承認申請

エーザイはアルツハイマー病治療薬「レカネマブ」に関して、**2023年1月16日**に国内で承認申請を行った。アミロイドβをターゲットにした薬剤であり、米バイオジェン社との共同開発品である。軽症患者の認知機能低下を長期間抑制する効果が期待される。米国では迅速承認を受けて1月中に販売するほか、欧州医薬品庁にも申請を行っている。

II. 第一三共、国産コロナワクチン申請へ

第一三共は、新型コロナウイルス感染症に対する mRNA ワクチン「DS-5670」に関して、**18歳以上**の追加免疫用として国内で承認申請を行った。国産ワクチンは塩野義製薬に続く2製品目であり、mRNA ワクチンとしては初めてである。2度～8度の冷蔵温度帯で流通可能であることが特徴だ。

III. 「ゴナックス」フェリングが承継

前立腺がん治療薬でアステラス製薬が製造販売元であった「ゴナックス」に関して、製造販売承認をフェリング・ファーマが承継し、国内での情報提供活動を**2023年3月31日**より開始すると発表した。同剤は、フェリング・ファーマが創製し、アステラスとは国内での

独占開発・販売権を提供するライセンス契約を締結している。これら契約を終了することに両社が合意したため、今回の承継に至った。

IV. 「ヒュミラ」アッヴィ単独に

アッヴィはリウマチやIBDなどの適応がある抗TNFα抗体「ヒュミラ」に関して、エーザイとの共同プロモーション契約を**2023年6月12日**に満了し、その後はアッヴィ単独でプロモーションを行うと発表した。また、消化器領域に関してはEAファーマとの契約を終了し、同じくアッヴィ単独でのプロモーションを展開する。同剤はバイオシミラーなども発売されており、エーザイとの2008年発売時からの二人三脚の関係に終止符が打たれることになった。

V. 科研、胆管炎治療薬候補導入へ

科研製薬は米シーマベイ社が欧米で開発中の原発性胆汁性胆管炎治療薬候補の「セラデルパー」に関して、日本国内での開発・商業化権に関するライセンス契約を締結したと発表した。科研製薬は長期経営計画の中で、従来の皮膚科、整形外科の他、新規診療領域への展開を目指しており、同剤の導入がその一つになると期待されている。同剤は日本を除く欧米では、国際共同治験でP3段階を実施中である。

IV. 展望

I. “異常” 気象

この冬は寒い。関東の都市部でも朝晩の寒さは堪える。ニュースで大雪に立ち往生する車列などを見ると、本当に大変だと思う。これらはラニーニャ現象によってもたらされるものらしい。

あくまで筆者の感覚だが、21 世紀に入ってから、**気象現象が変わってきている**ように感じる。子どものころ、夕立と言っていたものが、いつの間にか**ゲリラ豪雨と呼ばれる**ようになり、その名の通り激しい雨を降らせるようになった。**台風も昔よりも上陸する時期が早まった**気がするし、数も増えているように感じる。また、台風に限らず川が氾濫するような大雨が降ることも増えているのではないだろうか。毎年、数十年、百年に一度の大雨、などという言葉聞いている気がする。夏の暑さも厳しさを増しているように感じるし、桜の開花時期は確実に速くなっている。

さて、これらはよく異常気象というように表現される。昭和生まれの筆者からすると、子どものころには経験しなかったようなことなので、異常気象という表現に納得感があるが、21 世紀生まれにとってはどうだろうか。入学式に桜が満開というのが筆者の子どものころだったが、今の若者の感覚では卒業式シーズンだろう。ゲリラ豪雨も夏の風物詩みたいに当たり前に受け止められているのではなかろうか。

筆者は昭和の人間だが、毎年どこかで起きる昔とは違う**気象現象**に対し、**異常気象**と言い切ることに違和感を覚える。異常気象というと、正常な状態ではない気象状態でありいつか正常に戻るというニュアンスも含んでいるように感じる。しかし、気象現象によっては 20 年くらいずっと続いているものもあり、これが新しい正常なのだと認めたほうが良いように思う。

緩やかな変化に気が付かずいつの間にか取り返しがつかないことになってしまう「茹でガエル」現象という話があるが、この異常気象の捉え方は、それに近いものかもしれない。変化自体は認識しているが、この**変化が一過性のもの**でいつかは元に戻ると期待してしまう。本当はもう戻らないにもかかわらず。

コロナ禍、戦争、物価上昇や急激な為替変動など、2022 年も変化が激しい 1 年であった。多くの人は変化を嫌う。そのため、いろいろな理由を付けて、目の前で起きた変化は、いずれ収まり元に戻ると信じたがる。歓迎せざる気象変化を異常気象と表現していつか元に戻ると信じようとするように、望まない変化の原因を戦争などに見出し、それが終われば元に戻るだろうと将来を楽観視する。この、“今が異常でいつか普通に戻る”という希望的観測は、**緩やかな変化に気が付かないことと同じくらい危険なものの見方**かもしれない。(武田)

V. 市場動向レポート

I. コロナ禍の出口の先に

新型コロナウイルス感染症の出口戦略が動き出している。**5類感染症に扱いを変える時期を見計らっている**し、補助金などの支出も今後減らしていくだろう。すでに感染者が増えるようなタイミングでも、行動制限を伴うような宣言は出されなくなっている。一方で患者数などは減少する気配を見せずおよそ3年が経過しており、当初望んでいた克服という状況は難しく、インフルエンザのように上手く付き合っていくウイルスになってしまうのだろう。

3年という月日は短いようで長い。**3年あればいろいろなものが変化する**。自動車業界で言えば、電気自動車のラインナップが急拡大した。普段の生活では電子決済も普及した。コンビニでコーヒーを買って、クレジットカードで支払うなんて3年前には想像しなかった。レジ袋の有料化や紙でできたストローの登場などもある。

では医療の世界ではこの3年間、どう変わったのだろうか。今もコロナ禍の混乱の中にいるこの世界は、**ありとあらゆるものが変わったものの、何がどう変わったのか説明が難しい**。コロナ禍が落ち着いた場合に、何が元に戻るのかも、いまいわからない。コロナ禍という現象がすべてを包み隠してしまっているような感覚だ。

特に経営に関しては、変化が見えない。

病院を中心に、病床確保の助成金がある中で空き病床が経営に与えるインパクトが分かりにくくなっている。クリニックも今回の第八波と呼ばれる流行時には相当数の患者が来たほか、電話のみでの診療も多かったようで、これらの収益は少なくなかったはずだ。これが新型コロナウイルス感染症以外の患者の減少の実態を覆い隠してしまっている。

インフルエンザは3年ぶりに流行期に入ったと言っているが、3年前と比べるとかなり控えめだ。インフルエンザは特に内科クリニックにとっては収益源であろうから、次回以降のシーズンも、このような状況が続くようであれば経営への影響は出てくるだろう。

新型コロナウイルス感染症が5類に分類されるようになれば、受診費用の公費負担がなくなると、受診数自体が減る可能性もある。新型コロナと診断されても、解熱剤しか処方されないなら、受診せず薬局に行くという人も出てくるだろう。もちろん今ある各種補助金もなくなる方向で進むだろう。それが実現されたとき、コロナ禍の混乱でよく見えていなかった受領行動の変化、補助金抜きの本当の収支の状況など、3年間の本当の変化が見えるようになってくる。コロナ禍の出口の先に何が待ち受けているのか、今後明らかになっていくだろう。(武田)

VI. 数字で見る医療提供体制（都道府県別施設数 22 年 10 月）

	施設数					病床数			
	病院	療養病床を有する病院 (再掲)	一般診療所	療養病床を有する一般診療所 (再掲)	歯科診療所	病院	療養病床 (再掲)	一般診療所	療養病床 (再掲)
全 国	8 156	3 456	105 259	581	67 723	1 492 640	278 362	80 157	5 695
01 北海道	535	221	3 431	28	2 786	90 612	18 702	4 973	303
02 青森	90	35	860	8	490	16 334	2 253	1 567	77
03 岩手	92	29	889	7	550	16 146	2 138	1 055	71
04 宮城	135	48	1 747	9	1 052	24 595	3 175	1 264	79
05 秋田	65	23	816	4	423	14 029	1 832	655	49
06 山形	67	22	899	3	465	14 113	2 068	475	33
07 福島	124	46	1 395	5	830	24 033	2 983	1 007	37
08 茨城	173	75	1 779	13	1 365	30 494	5 269	1 577	119
09 栃木	109	55	1 482	6	958	21 136	3 966	1 441	48
10 群馬	127	61	1 580	2	974	23 420	4 029	888	26
11 埼玉	342	120	4 497	2	3 540	62 861	11 023	2 395	29
12 千葉	290	119	3 944	5	3 238	59 803	10 878	1 985	64
13 東京	630	230	14 710	10	10 704	125 386	21 894	3 454	130
14 神奈川	336	123	7 097	8	4 973	73 769	12 831	2 152	122
15 新潟	120	37	1 688	2	1 114	26 207	3 396	563	38
16 富山	106	50	757	1	439	14 994	3 760	395	12
17 石川	91	36	887	2	480	16 553	3 066	782	16
18 福井	67	28	572	7	299	10 249	1 763	825	88
19 山梨	60	27	754	3	429	10 580	1 999	403	18
20 長野	124	53	1 607	8	989	22 908	3 219	762	70
21 岐阜	97	46	1 635	15	949	19 622	2 840	1 404	185
22 静岡	170	79	2 764	4	1 745	36 273	8 684	1 643	56
23 愛知	317	146	5 628	16	3 704	65 916	13 207	3 425	163
24 三重	93	47	1 527	12	805	19 169	3 525	920	143
25 滋賀	58	29	1 148	1	564	13 863	2 476	465	17
26 京都	160	49	2 496	2	1 282	31 945	3 558	617	25
27 大阪	506	208	8 833	3	5 472	103 975	20 031	1 973	28
28 兵庫	347	152	5 225	10	2 958	63 825	12 740	2 242	88
29 奈良	75	33	1 224	2	682	15 951	2 748	397	18
30 和歌山	83	35	1 029	10	521	12 819	2 106	742	110
31 鳥取	43	25	486	3	258	8 313	1 743	420	18
32 島根	46	24	707	2	251	9 679	1 712	405	10
33 岡山	159	72	1 608	24	996	27 097	4 041	1 793	275
34 広島	232	106	2 543	32	1 502	36 935	7 381	2 496	319
35 山口	139	73	1 225	8	639	24 344	7 345	1 313	78
36 徳島	106	57	700	11	422	13 267	3 307	1 291	75
37 香川	87	35	853	17	472	14 059	2 092	1 333	167
38 愛媛	134	69	1 192	11	644	20 260	4 323	1 950	130
39 高知	120	70	526	2	346	15 738	4 461	1 075	10
40 福岡	453	204	4 807	75	3 072	81 626	17 145	6 215	627
41 佐賀	96	49	702	30	398	14 152	3 633	2 001	256
42 長崎	147	66	1 333	30	701	25 292	5 813	2 888	289
43 熊本	203	93	1 480	32	832	32 287	7 144	3 920	298
44 大分	151	44	961	15	522	19 458	2 365	3 326	143
45 宮崎	132	58	920	21	487	18 174	3 215	2 146	177
46 鹿児島	230	111	1 386	54	793	31 677	6 798	4 360	500
47 沖縄	89	38	930	6	608	18 702	3 685	779	61